

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年8月10日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	460101318
法人名	社会福祉法人 陽光会
事業所名	グループホーム あおば
所在地	鹿児島市東坂元2丁目31番3号 (電話) 099-248-5511
自己評価作成日	平成29年7月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成29年7月27日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様やご家族との信頼関係を深めつつ、地域住民の方々に暖かく見守って頂きながら、「私の居場所」と感じて頂ける家を目指しています。小高い丘の上の団地にあり、リビングや居室の窓からの眺めが良く、たくさんの家並みや山々、錦江湾や桜島などを眺めることで、生活空間が広がって解放的な気分になれる。また、仏教行事や音楽療法などを取り入れて穏やかで、安らかな日々を過ごして頂いています。鹿児島高等特別支援学校の要請により、1年を通して、実習を受け入れて、触れ合いながら、介護を学んで頂いています。年に2回、家族交流会を開催しており、歌を歌ったり、ゲームなどを行って、楽しい雰囲気の中で、家族との話し合いの場や触れ合いの場を持つことが出来ております。中でも、石臼を使ったお餅つきは、好評で、入居者様とご家族の皆様共同作業であんこを入れて丸めて頂いたお餅の味は、格別です。夏祭りやお寺参拝やドライブなど、リフト車を利用して、出掛けるようになりましたので、車椅子の方も出掛ける機会が増えて、とても喜んで頂いております。夏祭りでは、演芸を見たり、かき氷や綿菓子を召し上がって頂いたり、お参りの時には、お焼香の後、御饅頭とお茶を頂いたりして、それぞれの雰囲気を味わっておられます。音楽療法にも参加させて頂いており、あおばに戻って、もう一度再現しています。他に、他施設職員との親睦を兼ねて、おはら祭り前夜祭に参加したり、お花見や親睦会や忘年会などの食事会があります。法人勉強会も月に1回ありますので、一緒に勉強する機会もあります。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームあおば」は眺めの良い小高い団地の中心部に位置し、近くにはスーパーや小学校、高等学校もあり、桜島や錦江湾が望める環境のなかに在る。  
 管理者や職員は常に理念に添っているか話し合い確認し振りかえりながら実践し勉強会や研修会にも積極的に、利用者のケアサービスに活かしている。  
 地域住民や家族との関わりを大切に家族会や夏祭り、お寺参りも恒例の行事であり住職の法話は毎月ある。なかでも年2回開催される餅つき大会は石臼を使い、利用者の力を発揮するところでもあり家族と共に楽しんでいる。  
 災害対策も運営推進会議で話し合い検討され、防災加工の毛布での避難や個人用の非常用リュックサックも準備され、車椅子対応の利用者にも車椅子にかけてある。1階のベランダには緊急用の車椅子も常備するなど意識の高さが窺われる。  
 午前、午後のラジオ体操や音楽療法、高等支援学校のボランティアの受入れなど、利用者と家族の思いの実現を目指している。  
 看取りの経験のある管理者と職員は医師や看護師との連携をとり家族の希望する支援であり、緊急医療連携も取れ、家族の安心が得られたホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で、優しい心を以って、みんなの幸福のために安心して暮らせるような理念を作り、理念の意味を掘り下げて、介護の在り方を話し合っている。	管理者と職員は理念に添うように「常に優しい心、家族の一員、自分の親」として接することを心がけ、ネームプレートの中に入れ、ミーティングでの問いかけや、振り返りながらの実践につなげている	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、回覧板の情報により、行事や町内美化活動など出来るだけ参加している。入居者様と買い物に出かけて挨拶を交わしたり、話をしたりしている。	町内の防災訓練や清掃活動、回覧板での地域行事への参加など利用者が地域の一員として暮らしていけるように事業所自体が交流し、利用者も散歩や、買物で挨拶や言葉を交わしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の方の受け入れにより、訪問が多く、入居者様と一緒に買い物に出かけたり、花や野菜を育てているところを見ていただくことで、どのような施設であるのか理解していただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、外部評価の結果を報告し、今後の取り組みについて話し合っている。今、問題になっていることや悩んでいることを議題にして、その場で検討したことを参考にしたり、実際に取り入れたりして役立っている。	町内会長や民生委員、家族代表などの参加で開催される運営推進会議では活発な意見が交わされホームとしての取り組みも報告されている。避難場所の再検討や、利用者の非常用リュックサックに写真付ネームを貼り付けることも実施された。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	民生委員さんや長寿あんしん相談センターの方と話をしたり、介護相談員の受け入れにより、入居者様の希望や意見を参考にサービスの質の向上に役立てている。	市町村担当者も運営推進会議に参加し、ホームの実情や相談、空き状況の報告で紹介をもらったりしている。市町村主催の研修会にも積極的に参加し、介護相談員も受け入れ、協力関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人勉強会やミーティングの中で、ケアを振り返り、気づいていない身体拘束はなかったか点検して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。入居者様の行動パターンを把握して、外出したいときに一緒に出かけるようにしている。	毎月1回の法人全体での勉強会やミーティングで情報の共有を図り職員は身体拘束をしないケアに全員で取り組み、その都度、振り返っている。家族の要望で非常口は施錠しているが、外出を好む利用者は同行と見守りで、安全を確保しつつ自由な暮らしの支援となっている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人勉強会やミーティングなどで、高齢者虐待防止関連法について話し、理解を促している。例えば、自分の親だったら、どのようにしてほしいかを考えながらケアをするなど具体的なことを提示している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人勉強会やミーティングなどで、このような制度があることを職員に説明している。対応が必要なケースには、管理者が中心となって対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書により契約を結ぶ際、利用料金や入居・退去の基準の詳しい説明を行い、同意を得るようにしている。利用者の状態変化により退去に至る場合は、ご家族やご本人と対応方針を相談し納得していただけるようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族交流会や運営推進会議等において常に問いかけたり、ご家族が、訪問された時、何でも話せる雰囲気作りや声かけを心掛けている。出された意見や要望は、ミーティングで話し合っている。</p>	<p>年2回の家族交流会や餅つき大会、面会時に直接、意見や要望を言われる家族が多く、遠方の家族も月1回は電話があり本人の様子の報告をしながら意見を聞いている。出された意見や要望は真摯に受けとめそれらを運営に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定例会を開き、職員の意見や提案を聞く機会や話し合いの機会を設けている。事あるごとに問いかけをしたり、意見を求めたりしている。申し送りノートにも、意見を書いてもらっている。</p>	<p>管理者は職員の意見や提案を定例会で聞く機会を設け、時には法人の代表も参加し話し合いが進められている。夜勤の時個人面談をしたり、申し送りノートに記入もある。資格取得にも積極的であり働く意欲や質の確保につなげている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は、勤務状況を把握し、貢献年数により、昇給や役職などが考慮される。ミーティングにも積極的に参加して、意見を聞こうとされている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>介護支援専門員協会・社協の主催する研修などを積極的に受講するとともに、月1回職員の勉強会を開いている。参加できなかった職員も、資料と報告書を閲覧できるようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホームの管理者と事例の検討などを行う事で、質の向上に役立っている。勉強会に参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に関する相談があった時、出来れば、ご本人に面会して話をお聞きし、入居されてからは、事あるごとに、心身の状態や思いを話していただけるような声かけや機会を作り、受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談や見学に訪問されたとき、ご家族の苦労や不安などをゆっくり聴くようにしている。予約された後、時々近況をお聞きしたりする事で、信頼関係を作ることに繋がっている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、早急な対応が必要なのかどうか、ご本人とご家族の思いや状況などを確認し、可能な限り柔軟な対応を行っている。（他のグループホーム・デイサービス・ショートステイなど）		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者様と共に暮らす者同士であり、人生の先輩であるという考えを共有しており、入居者様の得意な分野（料理の仕方、行事の風習など）において学ぶことが多く、相談しながら物事をすすめるように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から、入居者様のご様子をお話ししたり、思っている事をお伝えすることで、ご家族と協力し合ってご本人を支えていける関係を築くようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の半数は地域に暮らしていた方々なので、面会に来てくださる。また、毎週外出されたり、家に帰られる方もおられ、馴染みの場所や人に思いを巡らせられるように支援している。	利用者は地域に暮らしていた方が多く、知人、友人の訪問やご主人の友達が訪ねてくる。毎週、外出する方や、自宅に帰り外泊もある。馴染みの美容室に出かけたり家族との墓参りも楽しみにしている。これまでの関係継続の支援になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、毎日お一人おひとりに時間を作って声をかけ、話を聴いたり、食事の時間もそばで、多くの会話を持つようにしている。介助の必要な方には、元気な方のそばに座っていただき、手伝っていただく事で楽しく支え合って過ごせるように心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状などを差し上げることにより、近況を知らせて下さっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ関わりを持つように心掛けご本人が、どのように暮らしたいのかをご家族や職員を交えて検討している。週1回ご家族と外出していただくことで、施設にいても、家族なのだ安心していただけるようにしている家族もある。	日々の会話や所作で利用者の思いや暮らし方の希望を把握しミーティングのなかで情報を共有している。把握の困難な場合は家族からの聞き取りや本人の視点にたって意見を出しあい取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、自宅か施設か病院に訪問させていただき、ご本人やご家族から聞き取りをさせていただいている。入居後も、折りに触れてご本人に問いかけ、どのような暮らしをされていたのか把握するように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様お一人おひとりの生活リズムや心身状態を理解するように努め、出来ることや理解できることなどを把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に、思いや意見を聴くための話し合いの機会を持ったり、遠くてなかなか訪問できないご家族には、家族会や電話や手紙を利用して意見交換を行い、介護計画の作成に活かしている。ミーティングを利用して、職員との意見交換やモニタリングをしている。	その人らしく暮らすための介護計画は、本人や家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見や気づきが出され作成されている。現状に即した介護計画の見直しも3ヶ月から半年でされ家族からの要望変化にも臨機応変に対応している	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が、毎日、入居者様の状態変化や気付いたことを介護記録・業務日誌・申し送りノートに書き込み、勤務開始前に確認することで、情報の共有化を図り、職員間のケアの実践や介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への受診時の送迎や付き添い・日常的な買い物の支援など、入居者様の希望や生活状況から発生するニーズに柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方や仏教婦人会の方々が、訪問して歌や踊りを見せてくださったり、近くのケアハウスからのお誘いで、音楽療法に参加させていただいたりしている。実習生の受け入れも行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族の意向を確認し、協力医療機関や以前からのかかりつけ医で継続して受診できるように支援している。他科受診の際もご家族の希望する医療機関を利用することができる。	これまでのかかりつけ医と介護度の高い利用者は訪問診療であり協力医療機関の往診もある。歯科や他科受診は家族や管理者で行く時もあり、受診の情報を家族や職員は共有し、緊急時は母体の病院と看護師による24時間対応である。適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>血圧や体温の異常に気付いた時やいつもと違う心身の変化に気付いたら、すぐに電話連絡をして、指示や助言をいただくようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>かかりつけ医に医療情報提供を依頼したり、介護情報の提供書を書き、安心して入院できるように手配したり、病院の相談員の方と納得がいくまで話し合うようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>早い段階から、終末期の在り方をご家族・医師・看護師・職員を交えて話し合いの場を何度も持ち、看取りをさせていただいております。重度化された時に、再び、具体的な話し合いを行うようにしている。</p>	<p>当ホームは看取りの経験もあり、管理者と職員は勉強会に参加し知識の向上に繋げている。入所時の話し合いにより文章を交わし、状況変化による段階的な話し合いも行われている。家族や医師、看護師との連携も取れており終末期に向けた方針の共有と支援である。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急手当のマニュアルを基に、ミーティングの中で、繰り返し訓練をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害マニュアルを分かりやすい所に掲示している。消防署とセキュリティ会社の方々の協力で、避難訓練や避難経路の確認や消火器の使い方などの訓練を年2回以上行っている。その他、あおば独自でも訓練している。系列ケアハウスや社会福祉施設の協力、近隣の方々の協力もお願いしている。</p>	<p>災害訓練は消防署とセキュリティ会社との協力で夜間想定を含み年2回以上とホーム独自の自主訓練も行っている。関連施設やクリニック、近隣住民の協力もあり避難経路や場所も確保され利用者の持ち出しリュックサックも常備され備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員にとって、入居者様は、自分の家族だと思って接するように心掛けており、尊敬の気持ちを忘れないような声かけや対応をしている。さりげない介護や誘導ができるようにミーティングを利用して意識向上を図っている。	職員は家族と思っでの接し方であるが馴れ合いの中で本人の尊厳を無視した対応になっていないかの確認をしている。接遇の研修も重ねており守秘義務の徹底、個人情報も管理者のもと責任ある取扱いとされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人おひとりの体調・体力・理解力に合わせ、出来そうなことや興味のあることを探して、言葉かけを試みる。ご本人が希望されないときは、無理強いしないように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活をしてもらいたいというご家族の希望があり、基本的な一日の流れに従って過ごされているが、その日の体調やご本人の希望により、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	服を着られる際できるだけ見守りや支援をして、季節感のあるその人らしい身だしなみができるよう心掛けています。髪も、希望に合わせたカットをしていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みや苦手なものを把握し、旬の食材やメニューを工夫することで、食事が楽しみなものになるようにしている。献立を決めたり、簡単な調理や片付けにも参加して頂いたりしている。職員は、同じテーブルに着いて話しながら食事をしている。	介護度が進む中、嗜好調査と季節の食材を活かしミキサー食やとろみ食など本人に合わせた食事を提供している。誕生日は本人の食べたいメニューで食事を楽しみ、エプロンの片付けや調理の手伝いをする利用者もいる。食事への関心を引きおこさせる支援である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた食事ができるように食事の内容や摂取量を記録している。職員は、同じテーブルについて食事をするので、入居者様の状態を把握できている。飲み込みが悪い方は、おかゆや刻み食やとろみなどで対応し、水分量の少ない方には声かけし、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員がそばで見守りながら、きれいになったか確認するようにしている。一人でできない方は、職員が義歯と口の中をきれいに磨いている。義歯洗浄剤を毎日使用している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンや習慣を把握し、トイレ誘導や声かけにより、トイレでの排泄や尿取りパットの交換をすることで、自立に向けた支援をしている。夜間紙おむつを使用されている方も、昼間はトイレでの排泄を支援している。	排泄チェック表での排泄パターンを把握し、昼間は定期的な声かけと尿取りパットの交換で殆どの利用者がトイレでの排泄ができています。以前は粗相のあった利用者や夜間の紙おむつ使用の方もトイレでの排泄が可能になり気持ちよく暮らすための支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から野菜を多く取り入れたメニューで食物繊維をたくさん摂取するように心掛けている。決まった時間に声かけをし、トイレに誘うようにしている。なかなか排便がない方には、医師の指示により、下剤を使うこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	いつでも入浴できるように準備している。ご本人の希望を確認し、入浴を嫌がられる方には、タイミングを計って何度か言葉かけするようにしている。	毎日入浴も可能であり、一人ひとりの希望に合せている。異性介助を好まれる利用者も数人おり、シャンプー・リンスも好みの物を使い、保湿ケアもされている。自室で手入れをされる利用者もおり入浴を楽しむ支援となっている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や生活習慣に合わせて、昼寝をして頂いたり、早く休んで頂いたり、リビングで眠くなるまでお話しされたりして、落ち着いて眠れるように支援している。昼間はできるだけ起きて活動して頂けるように心掛けている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルや服薬管理票を作成し、いつも確認するようにしている。薬の処方や用量が変更されたり、ご本人の状態の変化がみられる時には、日誌や申し送りノートに記録して、医療機関と連携が図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの力が、発揮できるように色々な場面を作って、興味のありそうなことに声かけをしている。歌・野菜作り・掃除など得意なことを見つけて挑戦していただけるようにしている。ご本人が希望されない時は無理強いないようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩など、ご本人のご希望に添って出かけている。外食やお墓参りなどは、ご家族の方をお願いしている。「家に帰ってみたい。」と言われる方がいらっしゃるので、毎週のように、外出され、家に連れて帰られるご家族もいる。	ドライブを兼ねて週2回はとうふを買いに出かけたりお寺での行事もある、天気の良い日は近くのスーパーに小遣いで買物を楽しみ、近隣の方と言葉を交わしている。毎週自宅に帰り外泊と外食をする家族や、墓参りなど利用者のその日の希望に添った戸外への外出支援となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理ができない方がほとんどだが、隣がお店なので、職員と共に買い物に行き、欲しい物を選んでご自分で買えるように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご本人が希望すれば、職員が電話してお話をさせていただいている。また、遠方のご家族は、定期的に掛けてくださる方もいらっしゃる。手紙が書ける方は書いていただき、出せるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関は、明るい雰囲気でもいつも季節感のある花を生けるようにしている。カウンター越しに台所の様子が見えるようになっているので、ご飯や料理の匂いや食材を刻む音、食器を洗う音など生活感を味わえるようになっている。リビングから見える外の景色はとてきれいで、眺めが良い。</p>	<p>明るく広い廊下とフローアは季節の花が活けられ、桜島が羨望できる見晴らしの良い空間であり、トイレや浴室も、利用者が混乱を招かないように生理整頓され清潔である。リビングの横と2階の廊下には仏壇が設置され利用者のこれまでの生活の延長を支援し、カウンター越しのキッチンからは生活感が味わえる音や匂いがある。仮眠するベットも配慮され居心地の良い共用空間である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングにソファを置いたり、廊下の隅に椅子を置いたりして、お一人で過ごしたり、気の合う方とお話をされたりして、くつろげるスペースを作っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者様の今までの生活していた環境に近づけるように、使い慣れた物や好みの物を持ち込んでいただくようお願いしている。ご家族の写真など安心して過ごしていただけるように心掛けている。</p>	<p>明るく眺めの良い居室はこれまでの使い慣れたものが持ち込まれ、私物のオムツ類には災害時にも役立つ防災加工の毛布でカバーをし、ポータブルの必要な利用者も目隠しするなど、プライバシーを大切にしながら居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレは、車椅子で使用でき、手すりが付いていて、お一人でも座ったり、立ち上がったりできるようになっている。廊下が広いので安心して車椅子を使用していただける。更衣室も浴室も広く、車椅子でも浴室の中まで楽に行くことができる。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない